

凝固検査検体取扱いに関するコンセンサス要旨*

編集著作：標準化委員会「凝固検査用サンプル取扱い標準化ワーキンググループ」

凝固検査では、検体の取扱いに関して学会から次の推奨事項が発表されています。誤った検体の取扱いは検査値の誤報告につながります。患者さんの病態を正しく反映した検査結果を報告するために、自施設で凝固検査を行う場合には以下の遵守をお願いします。

● 採血管

1. プラスチック製 または シリコン処理済みガラス製容器
2. 抗凝固剤は 3.13%~3.2% のクエン酸Na溶液

● 検体の処理と遠心

1. 採血後 室温（18℃~25℃）にて検体を搬送
2. 採血後 1時間以内に遠心処理し 4時間以内に測定**

遠心機の温度設定は18℃~25℃とし 遠心力と遠心時間は 1500×g で 15分以上 または 2000×g で 10分以上 とする***

3. 遠心後の血漿中残存血小板数を 1万/μL未満にする

● 測定前の確認事項

1. 抗凝固剤と血液の混合比率は 1 : 9（±10%まで許容）
2. 凝固，黄疸，強度溶血，高脂血・混濁試料は 原則 検査不可
3. ヘマトクリットが55%以上ではクエン酸Na量を調整して採血

● 検体の保存

1. 凍結保存はO-リング付スクリューキャップの容器を用いる
2. -40℃ 以下にて保存 長期の場合は -75℃ 以下の保存を推奨
3. 家庭用冷凍冷蔵庫は使用不可
4. 凍結融解は37℃水浴中で3~5分程度 緩やかに攪拌する

採血の手順はJCCLSの標準採血法ガイドライン最新版に従う

* 家子正裕，他．凝固検査検体取扱いに関するコンセンサス．日検血誌 17:149-157, 2016.
Ieko M, et al. Expert consensus regarding standardization of sample preparation for clotting time assays. *Int J Hematol*, 112:614-620, 2020.

** 外注検査の場合は，採血後1時間以内に遠心分離し，血漿を凍結して提出することを推奨

*** 2mL採血管に対する遠心条件である．3mL以上の採血管では血漿中残存血小板数を 1万/μL未満にするために，採血管の構造や容量に応じて遠心時間を延長する

